

前ページより続く

雨水利用や自然エネルギー（太陽光・風力）を活用した環境にやさしいビオトープ

の5項目を確認して、これからつくる場所を観察した上で6グループに分かれて、ビオトープのデザインを競い、子どもを含むチームのアイデアが投票より採用決定し、更に参加者全員の思いを加えたものを最終デザインとして広場に白線引きをし、鍬入れを行って第1回の講座を終了しました。

とても人力だけで白線内の土を掘り出すことは不可能と考え、赤司代表に次回までの間に油圧ショベルによる荒掘りをお願いしました。

2回目は35名の人々が参加、雨が降ったり止んだりの天候の中で、荒掘りしてあったところに、三ツ星ベルトの人の指導で、ゴムシートが張れる状態に仕上げる「のり面」作りやビオトープの形状作りに、硬化剤のセメントや岩石の入った硬い土と、汗と雨にびしょ濡れになりながら格闘して、ゴムシートが張れるところまで形を整えることが出来ました。最初はとても無理だと思っていましたが、集団の力の凄さを見せ付けられた一日でした。

第3回目は子ども15名を含む75名の人々が参加して、ビオトープの形状や底を整えた後、三ツ星ベルト提供のゴムシートを張り、ゴムシートの上を押部谷の農地から運んだ畑の土で覆いました。

猛烈な炎天下、皆でバケツリレーによる土運びや、石拾いなどをしたお陰でビオトープらしい原型が出現したときは、皆で拍手喝さいしました。人が力を合わせれば、

大抵のことは出来るのだとしひしと感じた一日でした。

第4回目もカンカン照りの中、40名の参加者があり、その中にはフランスからの留学生の姿もありました。この日は水循環用の水路、オーバーフロー水路の二つの水路作りと、枕木を利用した観察デッキと渡り橋作り、池の中に浅い所と深い所を作る土入れ作業と、ハードな作業を汗だくになりながら完了させて、池に始めて環境未来館の地下水槽に溜めてある雨水を注入しました。この日は作業している我々の上を何匹かのトンボが、あたかも棲家を偵察しているかのように飛んでいました。何年か先には、きょう作った水循環水路にホタルが乱舞する姿を夢見ながら、立派なビオトープに育って行くことを願いながらハードな一日の作業を終えました。

第5回目は30名の参加で、前回作った水循環水路とオーバーフロー水路にゴムシートを張り、その上を土で覆い、水循環ポンプ駆動用の太陽光・風力発電設備の据付配線工事（ワット神戸の皆さんがボランティアで作業）を行った後、神戸層群の白っぽい土の上を、茶色の山土で覆う作業を総出で行い、すっかり見違えるようなビオトープに仕上がりました。事前に木津駅周辺の明石川上流から採集したガマと布施畑のため池から採集したヒシを池の中に移入し、また、当日藍那付近から採集して持参して下さったイヤコナギも池の周辺に移植。いよいよ周辺の仕上げをしながら、動植物の移入作業を行っていくところまで来ましたので、移入作業をスムーズに行うために、基本的な移



水循環ポンプ駆動用の太陽光・風力発電設備

入の制約事項と、完成後のビオトープの管理に付いて、作業でくたくたの体に鞭打って確認の学習を行って第5回講座を終えました。前回水を張っておいたビオトープには、既にヤゴやミズスマシ、ハイイロゲンゴロウ、マツモムシなどが確認でき、自然のすばらしさを皆で味わった一日でした。

第6回は34名が参加して、動植物の移入ルールの確認をした後、前もって下見をして、地域の人々の了解を得ておいた明石川支流や木津駅周辺のため池、雑木林などに出かけ、グループの植物に詳しい人達の説明を受けながら、予定時間のオーバーも忘れて多くの和種の植物を採集して帰り、ビオトープの周辺に移植しました。動物の移入は急がず、しばらく自然のまま放置しておいて、状態の変化を記録しながらゆっくりペースで行っていきます。

第7回は台風の襲来で講座はお流れになりましたが、1~6回までに参加していただいた多くの人々の汗と労力に加え、講座と講座の間で何回も臨時的作業をして頂いた、グループの本部の皆さんのお陰で立派なビオトープに完成しつつあります。全く何もなかった更地に、本職の造園家が作れば簡単に出来たかもしれませんが、素人の市民が手づくりのビオトープを作った、ということに大きな意義があり、このビオトープが、これからビオトープを作りたい人や、ビオトープを勉強したい子どもたちに利用してもらえる場として、造成の記録や動植物の移入記録、講座で配布した資料などを整備し、ビオトープに関する図書も増やして、神戸のビオトープの拠点になるよう進めてゆきます。愛好会の結成も考えています。皆さんもぜひ一度見に来てください。